

日医発第 2093 号 (地域)

令和 8 年 3 月 3 1 日

都道府県医師会長 殿

公益社団法人日本医師会 会長

松本 吉郎

(公印省略)

診療所における新興感染症対策研修検討委員会 (プロジェクト)

報告書の送付について

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、標記委員会では「診療所を対象とした新興感染症対策研修の企画及び実践について」の諮問に対して、検討及び研修の実施を行ってまいりました。

今般、報告書が取りまとめられ、本職宛提出されましたので、ご参考までに 2 部お送りいたします。

また、昨年 10 月 13 日に開催いたしました「診療所を対象とした新興感染症対策リーダー研修」の受講者アンケート調査の結果のまとめについて、別紙の通り作成いたしましたので、ご査収のほどよろしくお願い申し上げます。

日本医師会
診療所における新興感染症対策
研修検討委員会（プロジェクト）

報告書

令和8年3月

令和8年3月12日

公益社団法人 日本医師会
会長 松本吉郎 殿

診療所における新興感染症対策研修検討委員会（プロジェクト）

委員長 舘田 一博

診療所における新興感染症対策研修検討委員会（プロジェクト）報告書

本委員会は、2024年（令和6年）12月20日に開催された第1回委員会において、貴職より「診療所の新興感染症に対する総合力を一層高める取り組みの企画及び実践について」について諮問を受け、これまで6回の委員会と1回の研修会を開催し、研修の企画・実践及び検証を行ってまいりました。

ここに本委員会での検討を踏まえ、報告書を取りまとめましたので、答申致します。

診療所における新興感染症対策研修検討委員会（プロジェクト）委員

委員長

たてだ かずひろ
舘田 一博 （東邦大学微生物・感染症学講座感染病態・治療学分野教授）

委員

おのざき けいすけ
小野崎 圭助 （秋田県医師会常任理事）

くわがた やすゆき
鋤方 安行 （大阪府医師会理事）

さそう まさと
笹生 正人 （神奈川県医師会副会長）

たかはし さとし
高橋 聡 （北海道医師会常任理事）

たかやま よしひろ
高山 義浩 （沖縄県医師会参与）

とりい あきら
鳥居 明 （東京都医師会理事）

ひらばやし ひろひさ
平林 弘久 （兵庫県医師会常任理事）

まさおか よしゆき
正岡 良之 （広島県医師会常任理事）

やすかわ しげひろ
安川 繁博 （福井県医師会副会長）

いずみかわ こういち
泉川 公一 （日本環境感染学会 災害時感染制御検討委員会 委員長）

（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科臨床感染症学分野 教授）

（長崎大学病院 総合感染症科・感染制御教育センター 診療科長・センター長）

すがわら えりさ （日本環境感染学会 新興・再興感染症対策委員会/

災害時感染制御検討委員会 副委員長）

（東京医療保健大学 名誉教授）

（一般社団法人感染防止教育センター（CEIP）副代表理事）

目次

I. 緒言	1
II. 診療所の新興感染症に対する総合力を一層高める取り組みの企画	2
III. 診療所を対象とした新興感染症対策リーダー研修の実施	3
IV. 研修後の対応・検証	6
V. 総括	8

I. 緒言

新興感染症への対策については、感染症法に基づく医療措置協定でも定められている通り、新興感染症発生からおおむね6ヶ月後には、協定締結医療機関である地域の診療所が発熱外来として多数の感染患者を診療する体制を築く必要がある。

そして、診療所は協定を締結しているか否かを問わず、平時では地域医療の第一線を担い、有事でも相応の対応をすることが求められる中、診療所の新興感染症への対応力を一層高める取り組みの一環として、日本医師会は研修会を開催することを決定した。

診療所における新興感染症対策研修検討委員会（プロジェクト）（以下、本委員会）は、上記研修を企画及び実践するために、2023年度より設置され、実際に、年度内の2024年3月24日に「診療所を対象とした新興感染症対策研修」を開催し、各地域への研修伝達を通して、新興感染症対策の整備に寄与することができたと考える。

本委員会は2024年度に引き続き設置され、委員は前期の7名に加え、新たに5名が参画した。2025年10月13日開催の研修会に向け、「診療所の新興感染症に対する総合力を一層高める取り組みの企画及び実践について」という松本会長の諮問の元、研修会の企画・実践・事後検証を行った。

具体的には、「地域における研修の企画・実践を担う者を養成するための研修」という趣旨が徹底されなかった前回の研修会の反省点を踏まえ、今回の研修会の名称を「診療所を対象とした新興感染症対策リーダー研修」とし、各都道府県において新興感染症対策研修を企画・実施するリーダーの育成することを目的として、研修を企画・実施した。

研修終了後には、受講後アンケートの集計結果を元に、本研修の振り返り・課題の抽出・改善方策について協議を図った。

II. 診療所の新興感染症に対する総合力を一層高める取り組みの企画

2024年10月20日に開催した第1回の委員会では、前期答申の報告書及び2024年3月24日に実施した前回の研修の振り返りが行われた。その後、2025年に第2回（2月5日）、第3回（6月19日）、第4回（7月17日）、第5回（9月10日）に委員会を開催し、各委員より各都道府県で実施している感染対策研修の情報共有と、本研修の詳細について協議を行い、以下の共通認識の下、研修の企画を行った。

- ・今期の研修は2025年10月13日（以下、本研修）を開催日とする。
- ・研修会の名称は「診療所を対象とした新興感染症対策リーダー研修」とする。
- ・研修の目的は、各都道府県において、新興感染症対策研修を企画・実施するリーダーの育成。
- ・本研修では、単に感染対策の研修を体験するだけではなく、どのような点に注意したら効果的な研修を行うことができるのか、注意点、工夫点などに関して、それぞれの地域の経験やお考えを共有いただく。
- ・参加者は、本研修で得た内容を参考に実際に各地域で研修会を企画・実施し、新興感染症発生時に、全国で発熱外来等に対応可能な診療所を増やすことが重要。
- ・研修内容は、前回の研修を踏襲しつつ、「新興感染症対策研修を企画・実施する者の育成」という本研修の目的・スタンスをより明確化し、指導のポイント示す内容に改める。
- ・ゾーニング机上演習は、実際の診療所の図面を用いた演習とする。

委員会には、オブザーバーとして厚生労働省医政局地域医療計画課新興感染症等医療対策室より担当官にも参画いただいた。

Ⅲ. 診療所を対象とした新興感染症対策リーダー研修の実施

本研修の講師については、本委員会委員に加え、本委員会の泉川委員、菅原委員を中心とした、日本環境感染学会各位に務めていただき、別途事前ミーティングを実施し、各実習・演習の状況設定、実習の流れ、時間配分を確認した。

また、兵庫県医師会の田中理事には、ゾーニング机上演習用に、ご自身のクリニックの図面を提供いただくとともに、当日の演習において、実例を元にした回答をいただいた。講師一覧、研修プログラム等は次の通りである。

講師等一覧（★：本委員会の委員長・委員・日医担当役員）

No	所属	氏名	役職・勤務先等
1	日本医師会	松本 吉郎	会長
2	日本医師会	★福田 稠	副会長
3	日本医師会	★笹本 洋一	常任理事
4	東邦大学	★館田 一博	教授
5	北海道医師会	★高橋 聡	常任理事
6	秋田県医師会	★小野崎 圭助	常任理事
7	東京都医師会	★鳥居 明	理事
8	神奈川県医師会	★笹生 正人	副会長
9	福井県医師会	★安川 繁博	副会長
10	大阪府医師会	★鋤方 安行	理事
11	兵庫県医師会	★平林 弘久	常任理事
12	兵庫県医師会	田中 庸生	理事
13	広島県医師会	★正岡 良之	常任理事
14	沖縄県医師会	★高山 義浩	参与
15	日本環境感染学会	四柳 宏	理事長、国立健康危機管理研究機構 理事
16	日本環境感染学会	★泉川 公一	理事、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 臨床感染症学分野 教授
17	日本環境感染学会	櫻井 滋	評議員、一般財団法人みちのく愛隣協会 東八幡平病院 理事・危機管理担当顧問
18	日本環境感染学会	★菅原 えりさ	評議員、一般社団法人感染防止教育センター（CEIP）副代表理事
19	日本環境感染学会	高山 和郎	評議員、東京大学医学部附属病院 薬剤部
20	日本環境感染学会	小野寺 直人	理事、岩手医科大学附属病院 感染制御部 副部長 感染制御専門薬剤師
21	日本環境感染学会	川村 英樹	理事、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 感染症専門医養成講座 特任教授
22	日本環境感染学会	寺坂 陽子	評議員、長崎大学病院感染制御教育センター 看護師長
23	日本環境感染学会	柿内 聡志	長崎大学病院総合感染症科・感染制御教育センター 助教
24	日本環境感染学会	古宮 伸洋	日本赤十字社和歌山医療センター 感染症内科 部長
25	日本環境感染学会	加藤 英明	評議員、横浜市立大学附属病院感染制御部 部長
26	日本環境感染学会	馬場 啓聡	東北大学大学院医学系研究科 総合感染症学分野 講師
27	日本環境感染学会	小山田 玲子	評議員、北海道大学病院感染制御部 看護師長、感染管理認定看護師
28	日本環境感染学会	上灘 紳子	理事、鳥取大学医学部附属病院感染制御部 看護師長
29	日本環境感染学会	具 芳明	評議員、東京科学大学大学院医歯学総合研究科 統合臨床感染症学分野 教授
30	日本環境感染学会	中澤 靖	評議員、東京慈恵会医科大学附属病院感染対策部 部長
31	日本環境感染学会	白髭 知之	長崎大学病院総合感染症科・感染制御教育センター 助手

令和7年10月13日(月・祝)

診療所を対象とした新興感染症対策リーダー研修プログラム

研修目的:

各都道府県において、新興感染症対策研修を企画・実施するリーダーの育成。
本研修では、感染対策の研修を体験するだけでなく、どのような点に注意したら効果的な研修ができるのか、注意点、工夫点などに関して、それぞれの地域の経験やお考えを共有いただく。参加者は、本研修で得た内容を参考に実際に各地域で研修会を企画・実施し、新興感染症発生時に、全国で発熱外来等に対応可能な診療所を増やすことが重要。

受講対象者:

各都道府県3名を上限とし、以下に該当するものが望ましい

- 都道府県医師会を代表する立場で、新興感染症対策等の研修企画に参画する者
- 管下の市区町村において、新興感染症流行初期後に、地域医師会の会館や休日夜間診療所等での臨時発熱外来や、診療所での発熱外来を行う際の立ち上げに寄与するもので、各都道府県医師会が推薦する者
- 将来において、都道府県及び管下地域で新興感染症対策の研修を企画・実行・指導し、次の新興感染症発生、まん延時に中心となり、各都道府県医師会が推薦する者※

※例えば看護師など、医師以外の者の参加も可能

会場: 日本医師会館

- 3階 小講堂(実技演習) / 5階 会議室(机上演習)

研修スケジュール:

【事前学習】JMAT-e (e-learning) による事前学習あり

【当日】原則、47都道府県医師会を①と②の2つのグループに分け、時間差で実施

前半グループ①

10:00~10:10 開会挨拶・趣旨説明
10:10~11:10 実技演習
11:20~12:50 机上演習
12:50~13:00 総評、閉会、解散

後半グループ②

12:30~12:40 開会挨拶・趣旨説明
12:40~13:40 実技演習
13:50~15:20 机上演習
15:20~15:30 総評、閉会挨拶、解散

【事後学習(JMAT-e)】事後学習完了後、修了証を都道府県医師会宛に送付

日本医師会生涯教育制度: 2.5単位 (CC: 8 感染対策)

◆プログラム概要

	科目	概要	時間
事前学習	事前 e ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新興感染症概論（確認テスト付き） ・ 新興感染症に備えた医療提供体制・医師会の取り組み・本研修の趣旨について（確認テスト付き） ・ PPE 着脱・手指衛生指導のポイント、検体採取手順動画（事前ヒアリング付き） ・ ゾーニング指導のポイント 	
研修当日	PPE 着脱	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実技を交えながら、指導ポイントの学習 	30 分
	手指衛生		15 分
	検体採取		15 分
	ゾーニング (講義 + 机上演習)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義 ゾーニングのポイント ・ 机上演習 設問図面を用いたディスカッション & 発表 ・ 講義 回答例説明、質疑応答 	90 分
確認	事後 e ラーニング		

IV. 研修後の対応・検証

研修会当日は 95 名の受講者があった。研修受講者には、日本医師会より修了証を発行するとともに、受講後アンケートを実施した。(以下、本アンケート)

2025 年 1 月 7 日に開催した第 6 回の委員会において、本アンケートを確認し、本研修の課題の抽出、改善方策に関する検討を行った。

本アンケート(集計期間:10月14日(火)~11月28日(金)、回答数:75名(回答率81.52%)、回答者属性:医師71名、看護職員3名、事務局1名)では、概ね研修の評価は高く、前回の研修にも参加した受講者からは、前回よりもブラッシュアップされ、参考となったとの意見もあった。本研修の開催目的はある程度達成できたかと思われるが、一方で、本研修を各地域で持ち帰って、実際に研修を企画・実施する上での課題としては、以下の点があげられた。

【自地域での開催を想定した際に、課題となりそうな点や、改善が必要と思われる点】

- ・研修実施会場の確保(手洗い場、検体採取)
- ・講師(感染症専門家)の確保
- ・参加者からの質問に適切に回答できない。ゾーニングの考え方を教えるのが難しい
- ・様々な理由で研修会に参加・協力しない先生方に、どうやって参加、理解いただくか
- ・多職種(事務・看護師等)と連携・チームを組んだ研修が望ましい
- ・開催医師会の負担、必要機材の用意

なお、「開催医師会の負担、必要機材の用意」については、日本医師会として既に実施している研修への支援策「研修備品貸出し」「新興感染症対策研修会支援事業」の再周知を図った。※

※令和6年4月2日付日医発第30号(地域)「感染対策研修用備品貸出しのご案内」

※令和6年8月21日付日医発第892号(地域)「新興感染症対策研修への補助について」

また、本研修全般については、以下のような要望をいただいている。

【研修全般について】

- ・繰り返し実施し、今回のような実地開催が良い
- ・回数を増やす。またはweb配信で各地域医師会でも利用できるようにしてほしい
- ・医師会ブロック単位での集合研修を実施してほしい
- ・新興感染症のフェーズ移行に伴う感染対策の変遷についても教えてほしい
- ・在宅、介護施設、小児等をピックアップした研修内容も学習したい

なお、「web配信で各地域医師会でも利用」については、前回の研修の動画・資料を都道府県医師会宛に公開しており、各地域で研修会の企画をする際の参考とするよう周知している。※

※令和6年5月7日付日医発第277号(地域)「診療所における新興感染症対策研修の動画・資料公開について」

上記アンケートの回答内容も踏まえ、今後、本検討会で研修等を実施する場合は、以下の点について検討し、より効果的・波及性のある施策を実行できるように努めてはどうかと、議論の整理を行った。

【研修全般について】

- ・研修開催形態の見直し
(日医集合研修・医師会ブロック単位での研修・オンライン開催等)
- ・受講者の見直し(より医療関係職種を含めた研修など)
- ・各地域での研修計画・実施状況のヒアリング
- ・研修内容の見直し
(ベーシック or リーダー向け、新興感染症の想定フェーズ、研修項目の見直しなど)
- ・各地域で研修を実施するための支援策(講師の確保など)

V. 総括

日本医師会会長 松本吉郎会長の諮問を受けて「診療所における新興感染症対策研修検討委員会（以下、本委員会）」は2023年度に設置され、2024年3月24日に「診療所を対象とした新興感染症対策研修」が開催された。「診療所の新興感染症に対する総合力を一層高める取り組みの企画及び実践」という松本会長の諮問のもとに本委員会は継続され、2025年10月13日に第2回研修会が開催された。第2回研修会では、「地域における研修の企画・実践を担う者を養成するための研修」を目的に研修会の名称を「診療所を対象とした新興感染症対策リーダー研修」とさせていただいた。“リーダー研修”とすることにより、地域の核となる人材の育成という本研修会の目的がより明確になったものと考えている。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックの中で、大学病院や基幹病院はもちろんのこと、それら医療機関と連携する診療所の重要性が改めて認識されるにいたったが、パンデミック初期には感染対策への対応が難しく、個々の医療機関の診療への参加がなかなか進まない状況も散見された。特に診療所においては、限られたスペース（診察室・待合室など）、限られたリソース（感染対策備品の確保など）、限られたマンパワー（医師・看護師等の確保など）の中でどのように診療を続けるかという難しい問題に直面したことを忘れてはならない。このような経験をもとに、本プロジェクトは、次のパンデミックに備える感染対策のリーダーを育成する研修として企画され、本委員会において研修プログラムや受講対象者等の検討を行った。研修当日は、北海道から九州まで95の先生方のご参加をいただいたことに感謝申し上げたい。地域のリーダー・あるいは次のリーダーとして活躍が期待されている多くの先生方に御参加いただいたことが重要である。今回の研修方法や内容を参考に、それぞれの地域で特色のある「診療所における新興感染症対策研修」として横展開していただけることを期待している。

本プロジェクトの企画・進行に関して熱心に議論を行ってくださった本委員会の先生方、当日朝早くからお集まりいただき、インストラクターとしてご協力いただいた

日本環境感染学会の先生方に改めてお礼を申し上げたい。

持続的な研修体制の構築とその実践のためには、医師会・医療機関・学会のネットワークとともに、行政および地方自治体との連携が極めて重要になる。今後、本研修会に参加した先生方が地域に戻り、自治体と一緒に、地域の実情にあった研修会を開催していただけることを期待している。最後に、大変お忙しいなか本研修会にご参加いただいた先生方、そして研修会の準備から当日の運営までご協力いただいた医師会担当者の皆様にお礼を申し上げて本研修会の総括の言葉とさせていただきます。

診療所を対象とした新興感染症対策リーダー研修 事後アンケート結果サマリーレポート

項目	内容
対象	研修受講者 92名
回答数	75名 (81.5%)
回答者属性	医師 71名、看護職 3名、事務 1名
集計期間	10/14～11/28

★研修内容に関する評価

- サマリー：ポジティブ言及を含む回答は 58 件
 - ・今後の地域研修に活かしたいとの意見多数
 - ・チェックリストを用いた研修方法は有用で、汎用性が高い
 - ・「正解が一つでない」ことを体験的に学べた
 - ・実技/演習中心とした実地研修という形式が非常に有用
 - ・少人数グループで質問しやすく、他地域参加者との意見交換できる形式は有意義である
 - ・受講者が各地域で研修会を開催するためには、講師、受講者、会場、費用の確保と、多職種の参加が課題となる

- 手指衛生（標準予防策）
 - ◆ 良い点
 - ・ 洗い残し可視化（蛍光剤）が大きな学習効果に繋がる
 - ・ 反復学習し、手洗いの癖を自覚、再確認できる
 - ◆ 課題
 - ・ 現場で手指衛生に十分な時間確保するための方法
 - ・ 手荒れを考慮した手指衛生の指導方法

- PPE（個人防護具）の着脱
 - ◆ 良い点
 - ・ 実演＋実技の組み合わせは理解が深まる
 - ・ 他受講者の着脱方法も学べて、自己流の見直しに繋がった
 - ・ 2人1組での確認の重要性が理解された
 - ◆ 課題・要望
 - ・ 講師間で説明のばらつきがあった
 - ・ 素材（ビニール・不織布）による手順の違いの整理
 - ・ 限られたスペースでの安全な着脱方法
 - ・ N95 の着脱/フィットテスト等をピックアップした研修実施要望

- 検体採取
 - ◆ 良い点
 - ・ 模型を用いた体験で手技の理解が進んだ
 - ・ 日医による模型の貸し出しは非常に有用
 - ・ 鼻咽頭への到達の重要性を再認識
 - ・ PPE、動線を含む流れの理解が促進

- ◆ 課題
 - ・ 乳幼児、小児での採取法の研修ニーズがあった
 - ・ 模型改善要望（透明化、内部構造可視化）
 - ・ 実際の診療所での PPE 必要性に関する懸念

- ゴーニング（机上演習）
 - ◆ 良い点
 - ・ 実例を用いた検討が非常に有効
 - ・ 「正解が一つでない」ことを体験的に学べた
 - ・ チェックリスト活用が有効
 - ・ 理想と現実の調整を考える訓練の重要性を認識

 - ◆ 課題
 - ・ 出入口が1か所の診療所が多いなど構造的制約下での対応
 - ・ 高齢者施設など他施設への応用の要望
 - ・ 患者数、フェーズ別の条件設定の必要性
 - ・ スペース制限下での実践方法への疑問

- 今後希望される研修形式・方法
 - ・ eラーニング＋実技のハイブリッド形式
 - ・ 年1回以上の定期開催
 - ・ 地域単位の研修会の開催
 - ・ 実技の個別フィードバック（動画、ピアレビュー）
 - ・ 少人数制、ペア学習
 - ・ BCP、地域感染症サーベイランス等の追加テーマ

- 地域で研修を実施する際に参考となった点
 - ・ PPE 着脱、手指衛生、検体採取の「実技中心」構成
 - ・ チェックリストの活用
 - ・ ゾーニング演習の実施方法
 - ・ グループ討議形式の有用性
 - ・ 「正解は一つでない」前提での指導法

- 地域開催に向けた課題
 - ◆ 講師、指導者の確保
 - ・ 専門家不足
 - ・ 指導者マニュアル、デモ動画整備の要望
 - ◆ 費用、会場
 - ・ 現地実習に伴うコスト負担
 - ・ 地域で適切な会場確保が困難
 - ◆ 参加者確保
 - ・ 診療報酬加算との関係が参加に影響
 - ・ 発熱外来への抵抗感が強い診療所も多い
 - ・ 看護師、事務職、介護スタッフなどにも参加してもらう方法

- 他地域での行っている研修で、日医が参考とすべき提案
 - ・ 模擬シナリオ演習の活用
 - ・ オンライン研修、ビデオ教材の活用
 - ・ 災害時感染症対策、交差汚染リスク提示などの応用的研修